

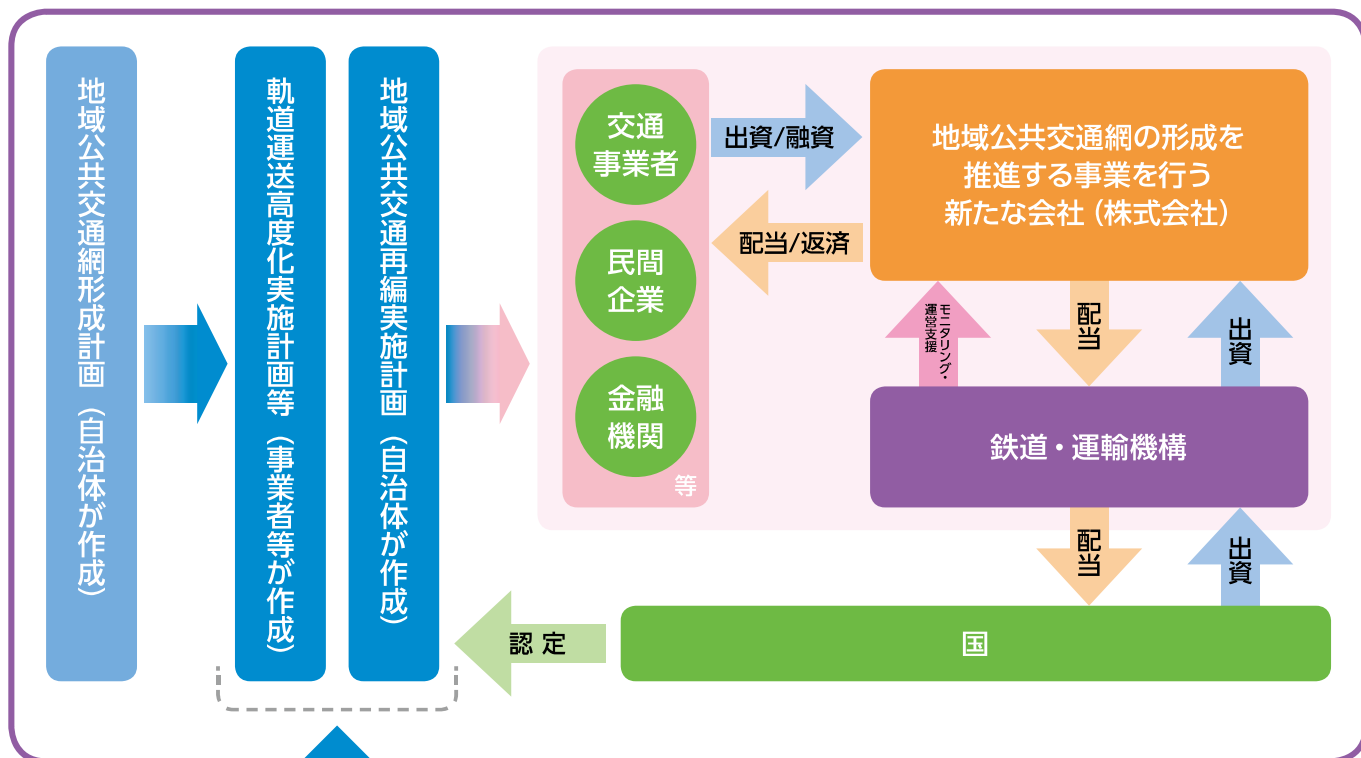
地域社会の活性化

持続可能な地域公共交通への出資による支援や旧国鉄土地の処分等を通じて、地域全体の価値向上や全国各地の魅力ある街づくりへの活用など、地域社会の活性化に役立てられています。

● 出資による地域公共交通の活性化・再生

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づいて、サービスレベルの向上、路線再編等により持続可能な地域公共交通網の形成に資する事業への出資等業務を行っています。

鉄道・運輸機構が出資等を行うことにより、事業を進めるに当たって必要となる初期投資について柔軟な資金調達が可能となるとともに、地元企業、金融機関等から必要な民間資金を呼び込むことが期待できます。



地域公共交通網の形成を推進する事業のイメージ

- ① LRT・BRTの整備・運行
- ② 上下分離による地域鉄道の再生
- ③ バス路線網の再編
- ④ これらと一体となったICカードや情報案内システムの導入等



ICカードシステム

LRT (Light Rail Transit)

従来の路面電車から走行空間、車両性能等を向上させたもので、高い速達性、輸送力等を持った、人や環境に優しい都市公共交通システム。

BRT (Bus Rapid Transit)

通常の路線バスよりも高速に運行し、都市の幹線交通を担うバスシステム。例えば、接続バス等。



LRT

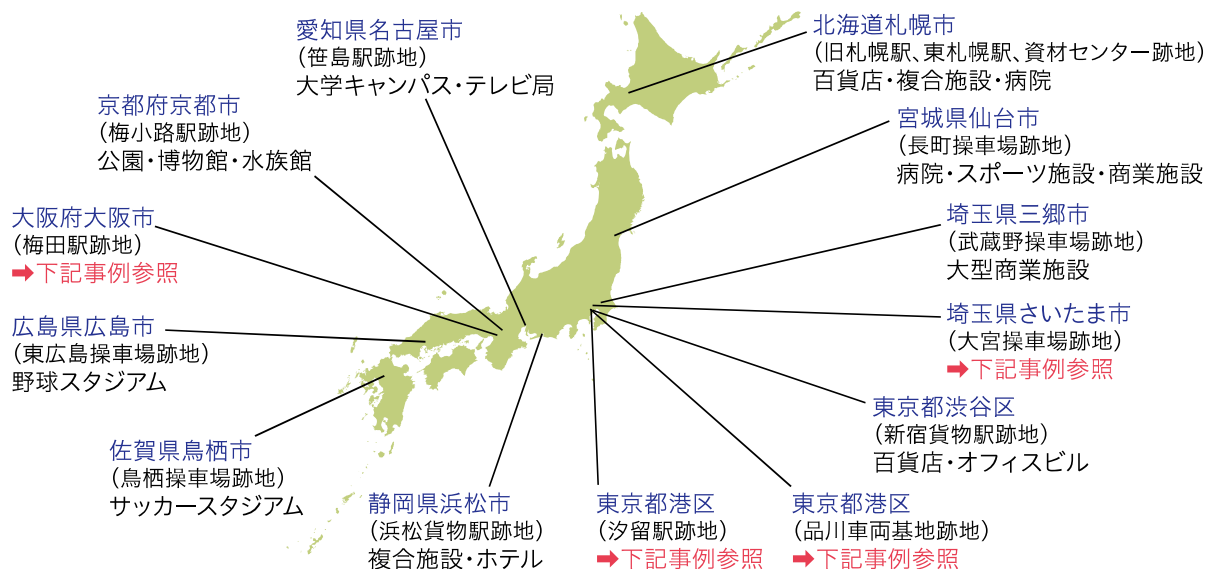


BRT

旧国鉄の土地を活用した魅力ある街づくりへの貢献

1987年の国鉄改革に伴い、全国各地で数多くの旧国鉄用地の処分を進めた結果、都市の発展や地域活性化等のための様々な公共施設や商業施設、マンション、分譲宅地に生まれ変わりました。そのなかで大規模な土地については、都市計画事業等による都市の再生や魅力ある街づくりに貢献してきました。

全国各地における主な土地活用事例



土地を活用した代表的地区の事例

汐留地区

東京の都心部に残された貴重な大規模用地汐留は、都心部と臨海部を結ぶ重要な交通結節点にあり、マスメディア各社をはじめ日本を代表する企業の本社が集結し、国際的な情報と文化の発信基地として生まれ変わりました。



品川地区

品川駅東口は、東京の南の玄関口として副都心に準ずる高度利用を図る地区として、2003年に東海道新幹線品川駅が開業、翌年には商業・業務ビル「品川ブランドコモンズ」が魅力ある新しい街として誕生しました。



大宮地区

好立地条件にある大宮操車場跡地は、県の中核・中核施設の整備や国の広域的な行政機能の集積を図るなど、中核都市圏として相応しい高次都市機能を集積した公共性の高い「さいたま新都心」が整備され、2000年5月に街開きをしました。



梅田地区

JR大阪駅に隣接する梅田駅(北)の2期開発区域は、その位置・規模から、全国的にみても「都心において残された大規模な一等地」であり、大阪はもとより関西の再生をリードする拠点として新たな街づくりが期待されており、現在、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点としてのまちづくりを目指し、土地地区画整理事業・JR東海道線支線地下化事業等が進められています。なお、先行開発区域については、2013年4月に「グランフロント大阪」として開業しました。

